

第4学年B組 総合的な学習の時間（はばたき学習）学習指導案

授業者 井上 駿太
研究協力者 細川 和仁

- 1 単元名 きらり みんなの笑顔があふれるまち
～みんなが笑顔になるためによりよいかかわり合いをもとめて～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

子どもたちは、第3学年の総合的な学習の時間「見つけよう！通町商店街のひみつ」において、町探検をする中で店や街並み、商店街の歴史について理解を深め、まとめる活動を通して、商店街で働く人々の「地域に根付いた歴史ある商店街を支え、よりよくしたい」という思いや願いに気付くことができました。また、多様性理解学習である「よつば学習」では、隣接する特別支援学校の児童が用意したゲームと一緒にいった。ゲームの説明をしたり実際にゲームを行ったりする中で、教師が支援をしながら進めている姿を見て、特別支援学校の児童には苦手としていることがあり、配慮が必要であるという表層的な多様性を捉えつつ交流を楽しむことができました。

商店街の一員としての人々の思いや願いに気付いたり、特別支援学校の児童との関わりについて考えを深めたりした児童であったが、一人一人にどのような特質があり、どのような関わり方をしてほしいと思っているかといった深層的な多様性を理解し、それらを考慮した接し方を考えるまでは至らなかった。そのため、相手のもつ個性や価値観を理解し、それを踏まえてどのように関わっていくかについて、探究サイクルの中で自分なりの答えを見いだす子どもの姿を期待する。

(2) 単元について

本単元での「学びのものさし」を働かせる姿は、他者の深層的な特質を理解し、どのように関わるかを考え、実践する姿であると捉える。

前述の児童の実態から、一人一人がもつ特質やそれに応じた向き合い方に着目し、様々な他者と関わり合う活動を通して、一人一人に特質の違いがあることを理解することで、他者とのよりよい関わり方について考えを深めることができる。地域に住む留学生やハワイの児童といった国籍や文化といった表層的な違いを捉えやすい他者との関わりの中で、価値観の違いや感じ方のずれなど、相手のことを知ることでしか見えてこない深層的な多様性の存在に気付くことができる。その上で、外国人との関わり合い方ではなく、一人一人の個性や価値観に目を向けた関わり合い方とは何かを考えることで、他者の特質に思いを寄せながら共に生きていこうとする児童の姿が期待できる。

これらを踏まえ、人それぞれに文化や個性、価値観の違いがあり、それを認め合い、受け入れ合いながら、共に生活していくという資質・能力を高めていくことをねらいとして、本単元を設定した。

(3) 指導について

「課題の設定」では、「自分はA？B？どっち？ゲーム」や特別支援学校の教師からの講話などを通して、互いのもつ個性や価値観の違いに気付き、その中で、様々な特質をもつ人とのように関わっていくかという課題を設定できるようにする。「情報の収集」では、地域に住む留学生と日本の学校での授業や休み時間を一緒に過ごす場や、ハワイの児童と一緒に絵本の読み聞かせを行う時間など、留学生やハワイの児童のもつ価値観に触れる場を設定する。また、ハワイの児童と「自分はA？B？どっち？ゲーム」を行うときは、子どもが質問をしたり問題作成をしたりすることで、自らのもつ課題に合う情報を得られるようにする。「整理・分析」では、留学生と交流する中で、相手が楽しかったと感じたり驚いたりしたことについて予想したランキングを作成する。その中で、友達や留学生、留学生同士の違いに着目し、国ごとや地域ごとの個性や価値観の違いに迫ることができるようにする。また、「まとめ・表現」では、交流する中で考えたよりよい関わり方について、自分なりに答えを見いだす場を設定する。その際、これまでの交流でみられた留学生やハワイの児童の文化や個性、価値観について、座標軸上にまとめる場を設定することで、自分のもつ価値観を明確に表現したり、友達と価値観を比べ合ったりできるようにする。自分と留学生やハワイの児童、また、留学生同士やハワイの児童同士の考え方の違いなど、多様な価値観の在り方に触れる中で、よりよい関わり合いには、一人一人の個性や価値観を認め、受け入れることが大切であると気付くことができるようにする。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 留学生やハワイの児童との関わりを通して、自分と異なる文化や個性、価値観に気付き、それを認め合い、受け入れ合うことができる。 〈D-a〉
- (2) 自分と異なる文化や個性、価値観をもつ人との関わりを通して、他者のもつ個性や価値観を踏まえ、どのように関わるべきか考えることができる。 〈D-d〉
- (3) 留学生やハワイの学生との関わりを通して、自分と異なる文化や個性、価値観をもつ人との関わり方を考え、実践しようとする。 〈D-a〉

4 単元の構想（総時数 23 時間）

3年総合 「つなげようよつばの心 広げよう友達の輪」

商店街で働く人が思いや願いをもって働いていることに気づき、それを商店街に来てくれる地域の人に伝えるなど、自分たちの住む地域がより活性化するために自分たちにできることを考える。

本単元

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1	<p>1 まちのみんなのことを知ろう</p> <p>(1) これまで過ごしてきた経験から、自分のまわりにはどんな人がいるか想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生や大人、お年寄りなど、年上の人 ・お店で働く人 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの周りには様々な人がいることを自覚できるように、これまでの町探検や日常生活など、外に出たときのことを想起する場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や見学を通して、学習の課題を見付けようとしている。〈A-a〉
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> みんなが笑顔になるような関わり合いはできますか。それはどのようにするとよいですか。 </div>			
2	<p>(2) 「自分はA？B？どっち？ゲーム」を通して、自分の好き嫌いや得手不得手などについて、友達と比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生の友達のことを知ることができた。 ・自分と全く同じ人はいなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ4年生でも様々な考えをもつ人がいることに気付くように、その選択肢を選んだ理由を発表する場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな人であっても、一人一人違った特質をもっていることに気付いている。〈D-h〉
3	<p>(3) 特別支援学校の教師からの講話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通とは何だろうか。 ・違った見方をすると相手のいいところが見えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のもつ特質には様々な見方ができることに気付くように、自分や友達の特質をリフレーミングする場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な特質をもつ人とどのように関わっていくか課題意識をもっている。〈A-a〉
4	<p>2 よりよい関わり方を探ってみよう</p> <p>(4) 自分と異なる文化をもつ人との関わり方について、自分たちができることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話しかけて相手のことを知るようにしよう。 ・一緒に鬼ごっこをして仲よくなろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人と自分を比べたとき、性格や価値観など深層的な多様性にも目を向けられるように、外見や言語以外に違いは無いか問う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験を踏まえて、自分と異なる文化をもつ人との関わり方について課題を見いだしている。〈B-b〉
5 6 7 8 9 10	<p>(5) 地域に住む留学生と共に学校生活をする中で、留学生が楽しいと感じたり不思議に思ったりすることを予想する。</p> <p>(6) 地域に住む留学生と「自分はA？B？どっち？ゲーム」を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域による文化や一人一人のもつ個性や価値観の共通点や相違点に目を向けられるように、ランキング形式で予想をまとめる場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に住む留学生と積極的に関わり、自分と異なる文化について理解を深めている。〈B-e〉

	<p>(7) 地域に住む留学生が楽しいと感じたり不思議に思ったりしたことを、自分の予想と比べて違いを探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんお話をしたことは楽しかったと思う。 ・そうじのことは給食より順位が上だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個性や価値観の違いに目を向けられるように、その選択肢を選んだ理由を発表する場を設ける。 ・自分と異なる文化や一人一人の価値観のずれに目を向けられるように、留学生の作成したランキングと自分の予想を比べる場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と留学生とのランキングのずれから自分との特質の違いに気付いている。 (B-e)
11	<p>(8) ハワイの児童と絵本の読み聞かせを聞き、絵本の感想を共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる文化や個性、価値観に気付けるように、自分たちが抱いた感想とハワイの児童が発表した感想の違いに着目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハワイの児童の感想と自分の感想を比較し、自分と異なる文化について理解を深めている。 (B-e)
12	<p>(9) ハワイの児童に聞きたいことを「自分はA？B？どっち？ゲーム」の問題にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生はみんなAだったからハワイの人もAを選ぶと思う。 ・留学生でも床に座ってご飯を食べる人がいたけど、住んでいる国が同じならハワイの人はみんな同じ方を選びそうだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分との価値観のずれに気付くことができるように、ハワイの児童がどちらを選ぶか理由を踏まえて予想する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハワイの児童の回答から、自分と異なる文化や価値観の存在について理解を深めている。 (D-a)
13 14	<p>(10) 自分たちが考えた問題を使ってハワイの児童と「自分はA？B？どっち？ゲーム」を行う。</p> <p>(11) 自分たちが考えた問題についてハワイの児童の答えと自分の予想を比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じハワイの人でも話すことが好きな人も聞くことが好きな人もいた。 ・国による違いではないのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のもつ個性や価値観に着目できるように、留学生に出題した経験を想起させ、違いについて問う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる文化をもつ人との価値観のずれから、関わり方について課題を見いだしている。 (B-d)
15 本時	<p>(12) 地域に住む留学生やハワイの児童との交流から、自分と異なる文化をもつ人とのよりよい関わり方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人それぞれ個性があり、考え方が違うので、相手に合った関わり方があると思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えに気付くことができるように、まとめてきたシートを見返しながら今までの活動を振り返る場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる文化や個性、価値観をもつ人との関わり方について、自分なりの答えを見付けている。 (C-c)
16 17 18	<p>(13) ハワイの児童との交流を企画し、イベントを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のことを知りたいと言っていた人もいたので、そのことをクイズにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の個性や価値観に目を向けて交流ができるよう、全員が参加できるイベントにすることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる文化や個性、価値観をもつ人との関わり方について考え、実践している。 (C-c)

19	<p>(14) 特別支援学校の教師からの講話を通して、特別支援学校の友達について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさんは色々なことが気になってしまうけど、よく周りを見ているということだからすごいな。 ・Bさんは体を一緒に動かすことが好きそうだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よつば学習の交流について課題をもつことができるように、特別支援学校の友達がもつ特質に着目して関わり方を考える場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を踏まえ、どのように関わっていくか課題意識をもつ。 〈A-a〉
20 21 22	<p>(15) 特別支援学校の友達との交流を企画し、実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きなキャラクターのことを話せば、仲よくなれそうだな。 ・マイペースな Aさんと話すときは、ペースを合わせてゆっくり話を聞いてあげよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の友達の特質に着目できるよう、自分との特質の違いを考えるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の特質を踏まえ、交流を企画している。 〈D-a〉
23	<p>(16) 特別支援学校の友達との交流から、自分と異なる特質をもつ人とのよりよい関わり方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のことをよく知って、考えて交流したらよりよいかかわり合いができた。 ・たくさんの人に合わせることは大変だと思った。 ・友達とのかかわり合いでも相手のことを考えてあげたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との関わりに大切なことを見いだすことができるように、友達や外国人との関わり方との共通することについて問いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる特質をもつ人との関わり方について、自分なりの答えを見付けている。 〈C-c〉

◎本単元で育む主な資質・能力

人それぞれに文化や個性、価値観の違いがあり、それを認め合い、受け入れ合いながら、共に生活していく。 〈A-a, C-c, D-a〉



5年生 きらり みんなの笑顔があふれるまちⅢ ～働くってどんなこと？～
学校行事を運営したり職業について調べたりする活動を通して、自分や周りの人のために働くことの意義について考える。

5 本時の実際

(1) ねらい 地域に住む留学生やハワイの児童との交流で気付いたことに着目し、自分と異なる文化や個性、価値観をもつ人との関わり方について話し合う活動を通して、自分と異なる文化をもつ人との関わり方について、自分なりの答えを見付けることができる。 (C-c)

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評 価
10分	<p>1 地域に住む留学生やハワイの児童との交流を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は緊張したけど楽しかった。 ・考えていることが全然違って面白かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題意識をもって学習に取り組めるように、単元の最初にもっていた考えとどう変化したか比べながら、本時の課題を設定する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>課題 みんなが笑顔になるようなかわり合いに大切なことは、どんなことだろうか。</p> </div>		
15分	<p>2 留学生やハワイの児童との交流から、気付いたことについて考え、話し合う。(個→グループ)</p> <p>【一人一人のもつ多様な価値観に気付いていない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの好きな漫画を留学生やハワイの子どもたちも好きと言ってくれたから、みんなが好きな物なのだろう。 【国籍や年齢など、表層的多様性に目を向けている】 ・留学生のお姉さんが給食や掃除について驚いていたから、違う国のことも分かってあげるようにすることが大切だと思う。 ・留学生とハワイの子どもたちでも「A? B? どっちゲーム」の答えが違ったから、国によって全然違うと思った。 【一人一人のもつ深層的多様性に目を向けている】 ・同じハワイの子ども同士でも考えていることが違ったから、同じ国の人同士でも一人一人考え方に違いがある。 ・4年棟の人たちでもコミュニケーションが得意な人と苦手な人がいるから、その人に合った関わり方があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちと留学生やハワイの児童を比べて考えることができるように、これまで作成したランキングやゲームの問題と留学生やハワイの児童の回答を見比べるよう促す。 ○留学生やハワイの児童のもつ文化や個性、価値観の捉えについて友達と比較できるように、ずれを可視化するシートにまとめる場を設定する。 ○クラスの一人一人の価値観の違いに着目できるように、お互いの考え方のずれにも着目させて、理由を問いかける。 ・一人一人がもつ個性や価値観にも目を向けられるように、表層的多様性に目を向けている子どもには、同じ国の人には同じ関わり方をするのがよいのか問いかける。
12分	<p>3 話し合ったことについて全体で発表し、よりよい関わり合いについて話し合う。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>自分と異なる文化や個性、価値観をもつ人との関わり方について、自分なりの答えを見付けている。 (C-c) (発表・シート)</p> </div>
8分	<p>4 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人それぞれ個性があり、考え方が違うので、相手に合った関わり方があると思った。 ・よつば学習のときも、一人一人の気持ちを考えて交流したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学びを単元の中でより深められるように、話し合ったことが、特別支援学校との交流(よつば学習)にどう生かせるか問いかける。

令和6年度 はばたき学習（総合的な学習の時間）実践・研究計画

部 員	○井上 駿太、猿田 千穂子、稲垣 勇介、中田 貴広
-----	---------------------------

研究テーマ

自ら見いだした課題について、作り出した自分にとっての答えとしての概念を基に、よりよい方法を用いて探究していく子どもを育む学び

1 研究テーマについて

昨年度までの実践で、他者評価を受ける場を設定することで、形成した自分なりの答えである概念に他者とのずれがあることに気付き、更なる課題解決に向けての方向性を見いだし探究に向かっていく子どもの姿が見られた。一方で、他者評価に気を取られるあまり、自分の思いや願いに妥協して課題解決に向かってしまう姿も見られた。また、新たに探究活動を進める際、これまで形成した概念や一度使った考えるための技法をどのように活用するかなど、課題解決の方法によさを実感し、必要感をもって用いることに課題が見られた。

こうした成果と課題を踏まえ、はばたき学習部は、子どもが作り出した概念を基に課題解決に向かっていることを目指し、本研究テーマで実践を積み重ねていく。

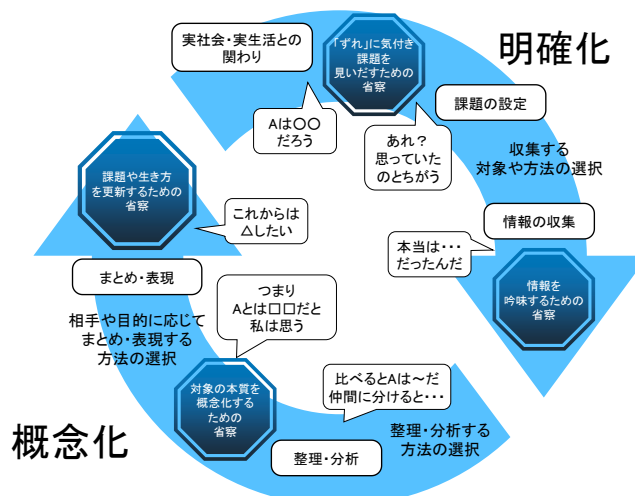
はばたき学習で目指す自律した子どもの姿

- ・「人・もの・こと」と関わりながら、予想や理想、思い込みと現実との「ずれ」に気付き、自ら課題を見いだす姿
- ・よりよい方法や視点を用いて探究する中で対象を明確に捉えていく姿
- ・対象や解決方法について学んだことを自分の言葉で意味付け、次の学びに活かす姿

他者評価において、全員統一の形式を用いるのではなく、自分の思いや願いに応じた評価の観点を各自が考え、作成することで、他者評価の目的と結果をより自分事として捉えられると考える。これにより、他者の考えを吟味せずそのまま受け入れるのではなく、取捨選択をし、自分の思いや願いにこだわりをもって主体的に探究を進める意欲につながり、自分なりの答えによって、深みのある概念が形成されることが期待できる。

そして新たな概念が、他単元や他教科にもつながり、はばたき学習以外の場面でも生きてはたらく実感を得られることで、更に高次元な概念として更新されていくと考える。

考えるための技法においては、よさを理解した上でよりよいものを選択できるようにすることで、必要感をもって活用できると考える。また、単元構想と配列を工夫し、他教科や行事などと意図的につながりをもたせることで、考えるための技法を活用する場面を設定する。これにより自分の学びが意味あるものだったと実感し、探究の意味や価値の実感にもつながると考える。



図：はばたき学習 自律した学習者を育てる学習のプロセス

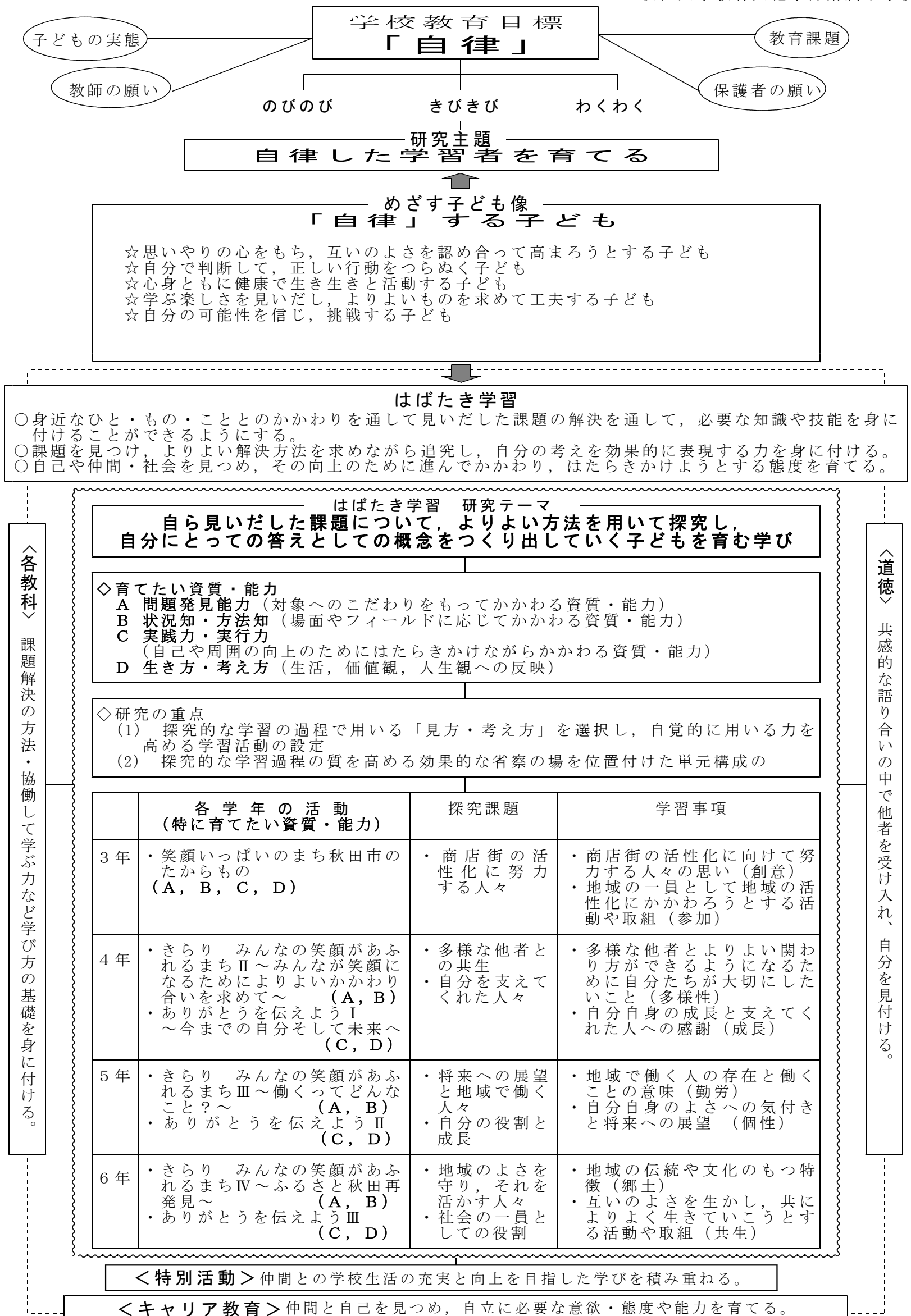
2 研究の重点 〈○は具体的な取組の例〉

探究する意味や価値、よさを見いだしながら、自分なりの答えである概念を基に、新たな探究につなげていくための支援の工夫

- 自分の思いや願いにこだわりをもって探究を続けていけるように、自分が必要とする観点の評価項目や評価相手を考え、必要感のある省察につながる他者評価の場を設定する。
- 概念更新を実感し、蓄積してきた概念や考えるための技法を活用して探究を進められるように、単元間や他教科間につながりのある単元構想と単元配列の工夫をする。

令和6年度 はばたき学習（総合的な学習の時間）全体計画

秋田大学教育文化学部附属小学校



3年生の総合的な学習の時間で身に付けたい「資質・能力」

a 問題発見 ＜A問題発見力＞	先行経験を活かして対象とかかわり、自分で問題を見付ける。
b 課題設定 ＜B状況知・方法知＞	教師の支援のもとに、疑問に感じたことを課題につなげる。
c 計画 ＜B状況知・方法知＞	解決の方法や手順を、学級やグループで相談しながら立てる。
d 情報収集 ＜B状況知・方法知＞	課題に応じた情報収集方法（インタビュー、図書資料、インターネット等）で情報を集める。
e 整理分析 ＜B状況知・方法知＞	収集した情報の中から大切な情報を選択する。
f まとめ 表現 ＜B状況知・方法知＞	言語、表、グラフ、図、音楽など様々なものから選択して、相手に伝わりやすい方法、自分自身の考えがまとめやすい方法で表現する。
g 報告・発表・ 討論 ＜B状況知・方法知＞	写真や図を用いてキーワードを示しながら説明する。
h 学ぶ意味や 価値 ＜D生き方・考え方＞	学習を始める前との自分の考えや意見の違いに気付く。
a 意思決定 ＜C実践力・実行力＞	これからのことを考えながら、今、自分にとって必要なことは何かを考える。
b 課題解決 ＜C実践力・実行力＞	対象となる人・自然・社会に適応したマナーや方法でかかわる。
c 実践力 ＜C実践力・実行力＞	自分の願いをもって、自分なりにできる働きかけをする。
d 生き方 ＜D生き方・考え方＞	自分のがんばりやよさに気づき、これからの生活について考える。
a 受容 ＜D生き方・考え方＞	異なる意見や他者の考えを受け入れる。
b 協働 ＜D生き方・考え方＞	互いのよさを見付け合いながら、協力して活動する。
c 環境 (人、社会、自然) ＜D生き方・考え方＞	地域を見直し、そのよさを感じながら、対象に働きかける。

総合的な学習の時間の学びを深める「見方・考え方」

- ・各教科等における「見方・考え方」を総合的に活用して、実社会や実生活における事象に着目し、多様な角度から考えたり、実社会や実生活の文脈、自己の生き方と関連付けて考えたりする。

4年生の総合的な学習の時間で身に付けたい「資質・能力」

a 問題発見 ＜A問題発見力＞	先行経験を活かして対象とかかわり、自分で問題を見つける。
b 課題設定 ＜B状況知・方法知＞	教師の支援を生かしながら、疑問に感じたことを課題につなげる。
c 計画 ＜B状況知・方法知＞	解決の方法や手順を学級やグループで相談しながら立てる。
d 情報収集 ＜B状況知・方法知＞	課題に応じた様々な情報収集方法（インタビュー、図書資料、インターネット等）で情報を集める。
e 整理分析 ＜B状況知・方法知＞	収集した情報の中からキーワードを中心に大切な情報を選択する。
f まとめ・表現 ＜B状況知・方法知＞	言語、表、グラフ、図、音楽など様々なものから選択して、相手に伝わりやすい方法、自分自身の考えがまとめやすい方法で表現する。
g 報告・発表・ 討論 ＜B状況知・方法知＞	写真や図を用いてキーワードを示しながら説明する。
h 学ぶ意味や価値 ＜D生き方・考え方＞	学習を始める前との自分の考えや意見の違いに気付く。
a 意思決定 ＜C実践力・実行力＞	これからの学習内容や方法を考えながら、自分にとって必要なことを決める。
b 課題解決 ＜C実践力・実行力＞	対象となる人・自然・社会に適応したマナーや方法でかかわる。
c 実践力 ＜C実践力・実行力＞	自分の願いをもって、これからの生活において自分なりにできる働きかけをする。
d 生き方 ＜D生き方・考え方＞	自分のがんばりやよさに気付き、これからの生活について考える。
a 受容 ＜D生き方・考え方＞	異なる意見や他者の考えに耳を傾け、受け入れる。
b 協働 ＜D生き方・考え方＞	仲間によさを見付け、互いによさを活かしながら活動する。
c 環境 (人、社会、自然) ＜D生き方・考え方＞	地域を見直し、そのよさを感じながら、対象に働きかける。

総合的な学習の時間の学びを深める「見方・考え方」

- ・各教科等における「見方・考え方」を総合的に活用して、実社会や実生活における事象に着目し、多様な角度から考えたり、実社会や実生活の文脈、自己の生き方と関連付けて考えたりする。

5年生の総合的な学習の時間で身に付けたい「資質・能力」

a 問題発見 ＜A問題発見力＞	目的に応じて対象に対するかかわり方を変え、吟味・修正しながら、問題を見つける。
b 課題設定 ＜B状況知・方法知＞	自分や友達の問題を大切にしたり、予想にもとづいたりしながら、課題を設定する。
c 計画 ＜B状況知・方法知＞	解決の方法や手順について自分で考えたり、友達と相談したりしながら立てる。
d 情報収集 ＜B状況知・方法知＞	自分が調べたいテーマに応じて様々な情報収集方法（インタビュー、図書資料、インターネット等）で情報を集める。
e 整理分析 ＜B状況知・方法知＞	収集した情報の中からキーワードを中心に大切な情報を選択する。
f まとめ・表現 ＜B状況知・方法知＞	言語、表、グラフ、図、音楽など様々なものから選択して、相手に伝わりやすい方法、自分自身の考えがまとめやすい方法で表現する。
g 報告・発表・ 討論 ＜B状況知・方法知＞	発表会や情報交換の規模、発表の仕方に応じた準備を整えたり、写真や図を用いてキーワードを示しながら説明したりする。
h 学ぶ意味や価値 ＜D生き方・考え方＞	学習を始める前と後での自分の考えや意見の違いに気付き、自らの成長ととらえる。
a 意思決定 ＜C実践力・実行力＞	これからの学習内容や方法を吟味しながら、自分にとって必要なことを決める。
b 課題解決 ＜C実践力・実行力＞	計画にもとづいて対象となる人・自然・社会の様子に応じてかかわり解決する。
c 実践力 ＜C実践力・実行力＞	自分の願いをもって自分や周囲に対して適切に働きかける。
d 生き方 ＜D生き方・考え方＞	自分のがんばりやよさに気付き、成長をこれからの自分の生活に生かしていこうとする。
a 受容 ＜D生き方・考え方＞	学習を通して共通性、法則性を見付けたり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりする。
b 協働 ＜D生き方・考え方＞	仲間よさを見付け、互いの知恵を生かしながら活動する。
c 環境 (人、社会、自然) ＜D生き方・考え方＞	自分たちの生活を見直し、そのよさを感じたり発見した課題を整理したりしながら対象に働きかける。

総合的な学習の時間の学びを深める「見方・考え方」

- ・各教科等における「見方・考え方」を総合的に活用して、実社会や実生活における事象に着目し、多様な角度から考えたり、実社会や実生活の文脈、自己の生き方と関連付けて考えたりする。

6年生の総合的な学習の時間で身に付けたい「資質・能力」

a 問題発見 ＜A問題発見力＞	目的に応じて対象に対するかかわり方を変え、吟味・修正しながら、問題を見つける。
b 課題設定 ＜B状況知・方法知＞	自分や友達の問題を大切にしたり、予想にもとづいたりしながら、課題を設定する。
c 計画 ＜B状況知・方法知＞	解決の方法や手順について自分で考えたり、友達と相談したりしながら立てる。
d 情報収集 ＜B状況知・方法知＞	自分が調べたいテーマに応じて様々な情報収集方法（インタビュー、図書資料、インターネットなど）で情報を集める。
e 整理分析 ＜B状況知・方法知＞	収集した情報の中からキーワードを中心に、自分の課題解決に大切な情報を選択する。
f まとめ・表現 ＜B状況知・方法知＞	言語、表、グラフ、図、音楽など様々なものから選択して、相手に伝わりやすい方法、自分自身の考えがまとめやすい方法で表現する。
g 報告・発表・ 討論 ＜B状況知・方法知＞	発表会や情報交換の規模、発表の仕方に応じた準備を整えたり、写真や図を用いてキーワードを示しながら説明したりする。
h 学ぶ意味や価値 ＜D生き方・考え方＞	学習を始める前と後での自分の考えや意見の違いに気付き、自らの成長ととらえる。
a 意思決定 ＜C実践力・実行力＞	これからの学習内容や方法を吟味しながら、今、自分が取り組んでおかなければならないことや必要なことを決める。
b 課題解決 ＜C実践力・実行力＞	計画にもとづいて対象となる人・自然・社会の様子に応じてかかわり解決する。
c 実践力 ＜C実践力・実行力＞	自分の願いを明確にして、自分や周囲に対して適切に働きかける。
d 生き方 ＜D生き方・考え方＞	自分のがんばりやよさに気付き、成長をこれからの自分の生活に生かしていこうとする。
a 受容 ＜D生き方・考え方＞	学習を通して共通性、法則性を見付けたり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりする。
b 協働 ＜D生き方・考え方＞	仲間よさを見付け、互いの知恵や自他の学びの成果を生かしながら活動する。
c 環境 (人、社会、自然) ＜D生き方・考え方＞	自分たちの生活を見直し、そのよさを感じたり発見した課題を整理したりしながら対象に働きかける。

総合的な学習の時間の学びを深める「見方・考え方」

- ・各教科等における「見方・考え方」を総合的に活用して、実社会や実生活における事象に着目し、多様な角度から考えたり、実社会や実生活の文脈、自己の生き方と関連付けて考えたりする。